

平成 18 年(2006 年)3 月 10 日 制作

私の 1 枚、私の一言



小川東二 (全国グアム島戦友会 会計代行)

昭和 18 年 6 月 7 日と日付があります。母が残した古いアルバムです。母の胸に眠っているのが私です。8 ヶ月ぐらいです。

父はグアム島で右足に貫通銃創を受け、静岡の石川真澄様、奈良の羽山清一郎様ら 7 名の方に助けられお世話になり、歩行できぬまま山野を這いながら彷徨し、米軍に収容されてから帰国までは芝崎軍医殿の治療を受け、昭和 21 年 2 月 20 日浦賀港に傷病兵約 30 名からなる第一陣として無事、幸運にも帰還しました。今も郷里の大垣で材木店を営んでおります。この写真に見える人たちは母も含め多くはもう居ません。

子供の頃から、何度となく「戦争の話」を語る父の姿を見てきました。お祭りとかお盆とか法事とか、大人が集まって“一杯”が出る時はいつも、父は 時間を忘れ「戦争」の時を語っていました。

また、「戦友会」は父には特別の行事で、何にも優先して参加してきたと思います。今もそうです。「グアム島」の話は父をとりわけ元気にしてくれるようです。体調が優れず入院していても時期が来ると元気になり、いつの間にか参加しています。

父は「多弁」ですが、確かな「一言」はまだ聞いていないようにも思います。これからです。父、小川二一は、陸軍上等兵、満州から転戦、今年 86 歳。健在です。

(大正 9 年 1 月 15 日生)